第３回　半田市立半田病院　新病院建設候補地検討委員会
議事要旨録

日　　時	平成３０年２月１８日（日）　午後２時～３時１５分	
場　　所	半田市立半田病院　第４会議室	
出 席 者	名古屋市立大学名誉教授	瀬口　哲夫
(敬称略)	半田市医師会会長	花井　俊典
	名古屋大学医学部附属病院副病院長	清井　仁
	愛知県半田保健所所長	増井　恒夫
	半田市区長連絡協議会会長	小栗　吉昭
	半田病院経営評価委員会委員	篠田　陽史
	半田病院経営評価委員会委員	山本美津穂
	半田市副市長	堀嵜　敬雄
	半田市立半田病院副院長	渡邉　和彦
事 務 局	事務局長	竹内　甲司
	管理課長	大嶽　浩幸
	医事課長	沢田　義行
	管理課主幹	都築　靖
	管理課副主幹	作左部昌俊
	管理課副主幹	青木　賢治
	管理課主査	水野　涼子
	管理課	滝澤　敏子
傍 聴 者	２３名	

○大嶽管理課長

皆さん、こんにちは。

定刻となりましたので、ただ今から、第３回半田市立半田病院新病院建設候補地検討委員会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、ご多用のところ、また、日曜日にも関わらず、委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

本日は、９名全員の委員の皆様にご出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので、本会議は成立しております。

次に、傍聴される方へお願いいたします。座席の上にお配りしてあります「傍聴者遵守事項」をお読みいただいて、遵守していただきますようお願いいたします。

議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしているものといたしまして、次第のほかに、資料１として、前回の委員会で花井委員からご要請がありました、建設場所に関する要望書。資料２として、市内小学校からの距離と所要時間。資料３として、新病院建設に関するアンケート用紙。

それから、本日お配りいたしました資料として、第２回検討委員会議事要旨録及び説明用スライド集でございます。

資料に不足等はございませんでしょうか。

それでは、議事の前に、自治区からの要望書の趣旨について、私から説明させていた

だきます。

まず、半田北部グラウンドへの建設を求める要望書が、亀崎・有脇両地区と横川小学校区から提出されました。提出者は各地区の区長で、宛先は半田市長となっており、提出日付は平成 29 年 12 月８日付け、同年 12 月 29 日付け、平成 30 年２月２日付けでありました。

要望事項の一つは、半田運動公園に移転した場合の、病院規模の見直しや経営面での悪影響などを考慮したうえで、半田北部グラウンドは、知多半島及び西三河の病院とのバランスがとれているため規模や経営面の問題がないこと。また、路線バスの運行本数を増やすことで利便性が高まること。二つ目は、アクセス道路となる大矢知線の用地取得交渉については、地元が協力して行うことで、開院スケジュールが早くなること。三つ目は、知多半島道路阿久比インターや名鉄阿久比駅が近くにありアクセスが良いこと。また、半田北部グラウンドが病院建物、駐車場に対しては充分な広さがあること。四つ目は、半田北部グラウンドに設置している知多広域消防指令センターとの連携が深まり、更なるサービス向上が期待できること。五つ目は、大矢知線の整備により、交差する東生見町交差点付近の交通渋滞が緩和できるほかに、アクセス道路と新病院誘致により、将来的に市街化区域編入の可能性が出てくると、市の人口増加や企業誘致が進むこと、などが挙げられています。

一方、半田運動公園への建設を求める要望書は、平成 30 年１月 18 日付けで、板山区長から半田市長へ提出されました。

半田運動公園は、知多半島のほぼ中心に位置し、知多半島道路や知多半島横断道路等に近いメリットがあるとし、知多半島医療圏の三次救急を担う病院としては、市保有地のどの場所よりも最良な場所であると認識をしています。さらに、アクセス道路整備と、さまざまな課題についても板山区が協力していくことを表明しています。要望事項の一つは、新病院建設場所を早急に決定し速やかに建設すること。二つ目は、新たに建設する場所は半田運動公園を強く要望する、という内容であります。以上、要望書についての説明を終了いたします。

それでは、以降の議事進行につきましては、委員会設置要綱の定めにより、瀬口会長にお願いいたします。

〇瀬口会長

それでは、議事を進行させていただきます。最初に、傍聴人の録音の件でございますが、録音の申し出があったということでございますので、会議の録音の許可について、お諮りをしたいと思います。

本日会場で配布している傍聴者遵守事項の中に「傍聴人は、傍聴においては、録音してはならない。ただし、会長が許可した場合は、この限りでない。」とあります。

録音したそのものの肉声あるいは内容そのものをインターネットなど、他のメディアにそのまま利用しないということを条件に、許可をしてもよいと考えますが、いかがでしょうか。

≪異議なし≫

○瀬口会長

「異議なし」ということでございますので、遵守事項を守っていただいて、録音について許可をいたします。

ただいまから議事に入らせていただきます。議事の１番、新病院建設候補地についてでございます。

事務局から説明をお願いいたします。

○青木副主幹

それでは、議事（１）「新病院建設候補地について」説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、前のスクリーンのスライドと同じ内容のものを「当日配布資料」としてお配りしておりますので、そちらもご覧ください。

最初に、前回の検討委員会で委員の皆様からご質問をいただいた、新病院のコンセプトについてご説明をさせていただきます。

平成２７年度のあり方検討委員会及び平成２８年度の新病院建設構想検討委員会においても、現在まで培ってきた半田病院の機能等を充実強化することで、新病院整備を進めることとして議論がなされました。

その中で、新病院整備にあたってのコンセプト、目指すべき方向性については、次のとおりとしています。

・知多半島中南部全域における中核病院として、救急医療を中心とした政策的医療を継続的に担うとともに、がんをはじめとする重要疾病への対応を強化する。
・当院は、知多半島医療圏で唯一の三次救急を提供する病院として、高度急性期医療を中心とした急性期を担う。
・特に、がん医療、循環器医療（脳血管・心臓）については、医療圏内における患者シェア率が高く、重点的に強化する。
・公立病院として特に求められる救急医療、災害医療、 周産期小児医療等の政策的医療については、現在の役割を継続的に果たしていく。
・質の高い医療を安定的・継続的に地域住民へ提供していくために、健全な病院経営を目指す。

これらは、当然のことながら、第６次半田市総合計画に記載されている「知多半島医療圏の基幹病院として安心して受診することができ、質の高い医療を提供している」という将来の姿と合致したものであり、また、本年度、愛知県にて策定されている「知多半島医療圏保健医療計画」においても、同様の機能及び役割が半田病院に求められています。

次に、外来患者及び職員アンケートについて、ご説明いたします。

外来患者アンケートにつきましては、新病院建設場所による患者さんの外来受診動向等を把握するため、平成 30 年２月１日から２月７日までの外来休診日の土日を除く５日間、実施いたしました。

各診療科受診後、会計書とあわせてアンケート用紙を配布し、回収させていただきました。

アンケート用紙はお手元の資料３のとおりです。
質問内容の一つ目は、居住地であり、半田市内の方は、有脇・亀崎地区などの地区名、半田市外の方は自治体名をお尋ねしました。
二つ目は、半田運動公園又は半田北部グラウンドに移転した場合の通院の可否、三つ目は、半田運動公園又は半田北部グラウンドのどちらを新病院建設地として希望するかについて、お尋ねしました。

こちらは前回の会議でもお示しした半田市内における地区別人口の分布図です。
外来患者アンケート結果を考える上で再度参考にしていただければと思います。

それでは、外来患者アンケートの結果についてご説明いたします。
５日間でのアンケート配布数は2,908枚、回収数は1,801枚であり、回収率は約61.9%でした。
最初にお住まいの地域についてお尋ねしたところ、ご回答いただいた方のうち、半田市内にお住まいの方の割合は全体の54%で、その内、地区別の割合については、有脇・亀崎地区の方が12%、乙川地区の方が21%、半田地区の方が37%、協和・成岩地区の方が28%となっています。
また、半田市外にお住まいの方の割合は全体の45%で、多い順に、武豊町が35%、阿久比町が20%、常滑市が14%、美浜町が8%という結果となっています。
次に、半田運動公園又は半田北部グラウンドに移転した場合のそれぞれの通院の可否についてお尋ねしました。
半田運動公園に移転した場合においては、「通院する」と回答した方は70%、「通院しない」と回答した方は7%、「わからない」と回答した方は、19%となっております。
一方、半田北部グラウンドに移転した場合においては、「通院する」と回答した方は50%、「通院しない」と回答した方は13%、「わからない」と回答した方は30%となっています。
こちらは、地区別及び市外の主な市町における患者さんの、半田運動公園又は半田北部グラウンドに移転した場合の、それぞれの通院の可否についてお尋ねした結果となります。
「通院する」と答えた方は、どちらの場所もそれぞれ居住地に近い場所のほうが多い傾向となっています。
最後に、新病院の建設場所としてどちらがよいのかお尋ねしました。
半田運動公園を希望する方は63%、半田北部グラウンドを希望する方は26%という結果でした。
地区別及び市外の主な市町別については、先ほどの通院に関する質問と同様、どちらの場所も、それぞれ居住地に近い場所への新病院建設を望まれる方が多い、という傾向となっています。

次に、職員アンケートについて、ご説明いたします。
新病院建設場所について、職員の意見を把握するため、平成30年２月１日から７日までの期間で実施し、回収ポストにて回収しました。

質問内容の一つ目は雇用形態及び職種、二つ目は、半田運動公園又は半田北部グラウンドのどちらを希望するか、そして、その理由といたしました。

職員アンケートの結果についてご説明いたします。

配布数は823枚、回収数は547枚であり、回収率は約66.5%でした。

回答した職員のうち、正規職員は72%、臨時職員は25%となっており、職種別では、医師が９%、看護師・助産師が51%、技術系医療職が16%、事務・その他の職種が20%となっています。

新病院の建設場所については、「半田運動公園がよい」と回答した者が55%、「半田北部グラウンドがよい」と回答した者が38%でした。

半田運動公園を選択した理由の主なものとしては、

・半田北部グラウンドでは、刈谷豊田総合病院などと近過ぎる。

・自宅から近い。通勤が便利。

・知多半島道路のインターに近い。交通の便が良い。

・半田北部グラウンドは、場所が不便。市街地や駅から遠い。

などの意見がありました。

一方、半田北部グラウンドを選択した理由の主なものは、

・半田運動公園は、常滑市民病院と近い。

・自宅から近い。通勤が便利。

・交通の便が良い。周辺道路の拡張性がある。

・半田運動公園は半田斎場に近い。

などの意見がありました。

次に、ＤＰＣデータについて、ご説明いたします。

ＤＰＣデータは、主な病院から提出された診療情報のデータであり、厚生労働省で集計され、年１回公開されています。

このＤＰＣデータには、患者さんの基本情報なども含まれており、これを活用することにより、医療検診や平均在院日数などの診療実績の比較を病院間で行うことができます。

今回は、主に患者さんの居住地と入院病院のデータをもとに分析を行っています。

今回の分析では、新病院に影響を与えると考えられる周辺病院として、刈谷豊田総合病院、碧南市民病院、公立西知多総合病院、常滑市民病院を取り上げました。

分析に当たっては、刈谷豊田総合病院、碧南市民病院については、平成27年４月から平成28年３月までのデータ、公立西知多総合病院については、平成27年５月開院のため、平成27年５月から平成28年３月までのデータを活用しています。

なお、常滑市民病院につきましては、ＤＰＣデータがないため分析ができておりませんので、ご了承ください。

今回の分析に当たっては、主に刈谷豊田総合病院との影響についてご説明させていただきます。

データの分析については、名古屋大学に依頼し、平成28年度、医療人材有効活用促進事業実施報告のデータをもとに行っております。

まず、分析の前提条件ですが、それぞれの地点について実際の運転時間で示すほうが

より正確なものになると考えられますが、半田病院、刈谷豊田総合病院、碧南市民病院、公立西知多総合病院のデータにおいて、運転時間と直線距離との関係性を見たところ、かなり強力な相関関係を示しているため、この地域に関しては直線距離での分析で差し支えないと判断し、ここでは、直線距離３㎞のエリアを運転時間 15 分、直線距離８㎞のエリアを運転時間 30 分として分析を進めております。

また、原則的には、患者さんの自宅から近い病院を受診するものとし、距離がほぼ等しい場合は、どちらを選択してもおかしくないという条件で、現在、半田病院を受診している患者さんが、移転後に他院との距離が同等レベルとなった場合、どれくらいの患者さんの流出が起こり得るのかを推計しています。

こちらの図は現在の半田病院及び刈谷豊田総合病院の、それぞれにおける 15 分近似円、30 分近似円となります。

オレンジ色の円が 15 分近似円、黄色の円が 30 分近似円となります。

先ほども申し上げましたが、15 分近似円は半径３㎞、30 分近似円は半径８㎞の円となります。

次に、候補地①の半田運動公園と刈谷豊田総合病院、現在の半田病院の近似円となります。

半田運動公園に移転した場合の新病院と刈谷豊田総合病院の 15 分近似円がオレンジ色の円です。30 分近似円が黄色の円になります。現在の半田病院の 30 分近似円が水色の円となっております。

こちらは、もう一つの候補地、半田北部グラウンドと刈谷豊田総合病院、現在の半田病院の近似円となります。

先ほどと同様に、半田北部グラウンドに移転した場合の新病院と刈谷豊田総合病院の 15 分近似円がオレンジ色の円、30 分近似円が黄色の円。現在の半田病院の 30 分近似円が水色の円となります。

１番上の表は、現在の半田病院と 30 分近似円が重なっている市町村のそれぞれの病院における患者さんの数であり、高浜市、東浦町及び碧南市の方は、半田病院よりも、刈谷豊田総合病院を受診される方が多いことがわかりいただけるかと思います。

２番目の表は、病院が半田運動公園に移転した場合に、現在は半田病院を受診している患者さんのうち、移転後は刈谷豊田総合病院を受診するかもしれない患者数を表にしたものです。

黄色の網掛けの部分がそれであり、東浦町、碧南市、高浜市の患者さんのうち、あわせて 106 人から 135 人程度ではないかと分析しています。

１番下の表は、病院が北部グラウンドに移転した場合に、現在、刈谷豊田総合病院を受診している患者さんのうち、移転後は半田病院を受診するかもしれない患者数をまとめたものです。

東浦町、刈谷市、大府市の患者さんのうち、最大で 265 人程度の流入が予想されると分析しています。

ちなみに、平成 27 年度の半田病院ＤＰＣ分析対象数は、1 万 473 件となっております。

次に、半田運動公園に移転した場合の「良いと思われる点」と「懸念点」について、ご説明いたします。

まず、良いと思われる点につきましては、

・市街地から離れるため、特に踏切付近などにおける渋滞の影響を受けにくくなること。

・知多半島道路の半田中央インターから近くなり、知多半島の医療の要として、特に、常滑市や知多半島南部からの救急搬送の利便性が高まること。

が考えられます。

その一方で、

・2.8㎞西には、常滑市民病院があるため、機能分化などの共存について調整が必要ではないか。

・候補地の北側750mには半田斎場があり、患者心情として問題ないか。

・現在は公共交通機関が不十分であり、その整備もあわせた検討が必要ではないか。

などの懸念があると考えられます。

次に、半田北部グラウンドに移転した場合の「良いと思われる点」と「懸念点」について、ご説明いたします。

まず、良いと思われる点につきましては、

・市街地から離れるため、特に踏切付近などにおける渋滞の影響を受けにくくなること。

・知多半島道路の阿久比インターから近くなり、知多半島の医療の要として、特に常滑市や知多半島南部からの救急搬送の利便性が高まること。

・半田北部グラウンドの東約700mまで知多バスが走っているため、区間の延伸や増便ができれば、公共アクセスが可能となる。

などが考えられます。

その一方で、現状、北部グラウンドに北側から入る道は狭く、中央分離帯があるため、改善する必要があるのではないか、ということが懸念されております。

これらの分析のまとめとして、それぞれの場所の特性についてご説明いたします。

まず、半田運動公園に新病院を移転した場合についてですが、

・候補地が現病院よりも西寄りとなり、30分近似円では重なりが出ていた範囲が減少するため、重なり範囲で半田病院を受診していた患者さんが、刈谷豊田総合病院へ一部流出する可能性があること。

・高浜市や碧南市など、衣浦湾より東側の患者さんの多くが、刈谷豊田総合病院へ流れる可能性が高くなること。

・東浦町の多くの範囲でも、刈谷豊田総合病院へ流れる可能性が高くなること。

が挙げられます。

その一方で、全体的に西寄りに移動することにより、公立西知多総合病院や常滑市民病院を現在受診している患者さんの流入が考えられます。

次に、半田北部グラウンドに新病院を移転した場合、

・候補地が北寄りになるため、30分近似円の範囲内に刈谷豊田総合病院や碧南市民病院、公立西知多総合病院が新たに入ること。

・半田市中心部も30分近似円内におさまっており、大きな患者さんの流出は起きないこと。

・武豊町などが30分近似円から外れる形となり、知多厚生病院への流出が一部考え

られますが、規模、機能からしても、そこまでの影響はないと考えられます。ただし、その場合は、武豊町の患者さんの移動負担は増加することになります。

また、常滑市民病院も15分近似円が重なっていないため、この付近は影響はほとんどない状態であり、別病院へ受診している患者さんは、距離は関係なく、その病院を受診する可能性が高くなっています。

こちらは名古屋大学が作成した資料をもとに事務局で作成しました、半田運動公園に新病院が移転した場合の新病院と常滑市民病院、公立西知多総合病院、刈谷豊田総合病院の、それぞれにおける15分近似円及び30分近似円を示したものです。

同様に、半田北部グラウンドに新病院が移転した場合の新病院と常滑市民病院、公立西知多総合病院、刈谷豊田総合病院の、それぞれにおける15分近似円と30分近似円を示したものです。

最後に、過去２回の委員会及び本日の説明資料を含めた全体の内容を整理いたしますと、次のようになります。

・半田病院は、引き続き知多半島中南部全域における中核病院としての役割を担う病院として整備すべきである。
・外来患者や職員アンケートからは、建設予定地として半田運動公園を希望される方が多い。
・外来患者アンケートからは、それぞれの場所に移転した場合の「通院しない」と回答した方の割合に大差はない。
・半田運動公園に移転した場合の、他の病院に流出する患者数や、半田北部グラウンドに移転した場合の、他の病院から流入する患者数は、全体の患者数からすると、それほど影響はないと考えられる。
・半田運動公園に移転した場合は、常滑市民病院との機能分担や経営形態などの協議が必要となる。
・撓曲や活断層が各候補地に与える影響は同程度であるが、いずれの場所においても決して軽視せずに、対応に万全を期す必要がある。
・交通アクセスについては、コミュニティバスなどの検討が必要である。

となります。

以上で、事務局からの説明を終わります。

○瀬口会長

ありがとうございました。

今、アンケートと外部に委託しておりましたＤＰＣデータ、これは、単純なモデルだと思いますが、報告をいただきました。

ご意見、ご質問をお願いいたします。

○篠田委員

先回、できれば常滑市民病院の関係者、この前は院長さんがいいという話だったのですが、その出席が整ったのかどうなのか教えてください。

○瀬口会長
　前回私は、半田病院のコンセプトを出していただくということで、半田病院の院長さんのつもりでした。
　説明をお願いいたします。

○大嶽管理課長
　常滑市民病院の院長先生にご相談をさせていただきましたが、「本日は申し訳ないが出席はできません」という連絡をいただいております。

○瀬口会長
　よろしいですか。
　議事録 25 ページと 27 ページの私の発言は、常滑市民病院の院長さんではなく、半田病院の院長さんですので訂正してください。
　他にはどうでしょうか。

○大嶽管理課長
　先に、増井委員から資料２について説明していただきたいと思います。

○瀬口会長
　事務局からの説明に対してご意見を伺う前に、増井委員から資料２についてご説明していただきます。

○増井委員
　半田保健所の増井です。
　資料２ということで、簡単な表を用意させていただきました。
　特に公衆衛生に関する問題ではないですが、どれぐらい時間がかかるかということを客観的に知りたいと思いまして、各小学校から半田運動公園と半田北部グラウンドにどれぐらい時間がかかるのかということを調べてみました。グーグルマップを利用すると、出発点と目的地を入力すれば、その距離と時間がわかりますので、最短で行けるルートを鑑みまして、それの時間と距離を載せてあります。
　それから、各校区の人口は事務局から教えていただきましたので、人口を考慮したものも１番下に書いてあります。結果としては、単純な平均とほとんど変わりがなかったということです。
　現在の半田病院までどれぐらい時間がかかっているかと言いますと、各小学校からの平均が 3.7km ということで、単純平均でいくと 12.2 分かかります。
　人口を考慮した場合でも 12 分ということです。それに対しまして、半田北部グラウンドは少し距離が伸びて平均で 8.1km ということで、時間については、単純平均、人口を考慮した平均ともに 17.3 分ということで、5 分ぐらい余分に現在のところよりもかかるような結果となりました。
　半田運動公園に関しましては、距離が 5.9km ということで、現在の半田病院よりは 2km ぐらい距離が延びるということと、時間的には 13.7 分、13.4 分ということで、現

在よりも1分か2分ぐらい余分にかかるということです。
　地区別でみると、非常に遠くなるところも近くなるとこも出てきますが、半田市全体で見た平均で見ると、現在よりも、2分から5分程度変わるぐらいかなというところです。

○瀬口会長
　ありがとうございます。
　お忙しいところ調べていただきました。
　数値とかアンケート結果が出ると、それをベースにしながらご意見をいただけるということで、ご尽力ありがとうございました。
　ご意見をお願いしたいと思いますが、ＤＰＣデータについては、単純なハブモデルとか重力モデルですか。

○青木副主幹
　こちらのＤＰＣデータについては、それぞれ入院患者さんにはＩＤコードがありまして、それでどのような病気にかかっているのか、どこにお住まいなのかというものを、全てデータにして出しております。
　それをもとに、今回の場合は、どこにお住まいの方が、どの病院を受診されておるのかというところをもとに、この15分近似円、それから30分近似円を出しまして、どの程度の患者さんの移動があるか、というものを分析していただいたというものでございます。

○瀬口会長
　15分近似円、30分近似円をどういうふうに使っているのでしょうか。
　患者さんのデータがあって、距離が変わると、そのときに、15分近似円や30分近似円がなくても計算できるような気もするのですが。

○青木副主幹
　ここに書いている数字は、実際の27年度の患者さんの実数ですが、それを考慮いたしまして、特にここでは、30分近似円で重なっている方が、病院の位置が動くことにより、どのような変化を示すのだろうか、というところを検討していただいております。

○瀬口会長
　皆さんおわかりでしょうか。おわかりでしたら、それをもってご利用いただきたいと思います。
　データを使って、半田運動公園と半田北部グラウンドの、良いと思われる点、懸念点。
　それから、「まとめ」という形で整理していただいており、また「内容整理」というところがございますが、これが結論につながっていくと思いますので、ぜひ、「これが正しい」とか、「もう少しこういうことがあるんじゃないか」ということをおっしゃっていただいたらいいかと思いますが、いかがでしょうか。
　それでは、内容整理のところみましょうか。

これまでの内容整理をすると、最初の「半田病院は、引き続き知多半島中南部全域における中核病院としての役割を担う病院として、整備すべきである」ということについては、前回課題になりました。

半田病院の役割については、以前作成していた基本方針からも変わらないということですね。

それから２番目は、外来患者や職員アンケートからは建設予定地として半田運動公園を希望される方が多い。

外来患者さんと職員さんの違いは、外来患者の場合はどちらかというと、距離が近いほうが優先されていると思うのですが、職員アンケートの場合は、それがちょっと緩くなって、半田北部グラウンドを希望する人の割合が少し高くなっているような気がします。

この点について、皆さんご了解いただいたということでよろしいですか。

患者さんと職員のアンケートからは、そういう結論となります。

懸念事項の中に、斎場に近いとありますが、いずれに決まっても解決をするような形で努力をしていかないといけないのですが、斎場を移すわけにいかないので、難しいと思います。

２番目のことについてはよろしいでしょうか。

３番目の項目で、「外来患者アンケートからはそれぞれの場所に移転した場合の『通院しない』と回答した方の割合に大差はない。」とあります。

大差というのは、相対的なものですが、そういう理解でよろしいでしょうか。

患者さんの絶対数に比べて、そのように回答した方の数が、割合として少ないという認識だと思いますが、よろしいでしょうか。

４番目に「半田運動公園に移転した場合の他病院に流出する患者数や、半田北部グラウンドに移転した場合の他病院から流入する患者数は、全体の患者数からすると、それほど影響はないと考えられる。」とあります。病院の経営ということで、これまでの会議のときにご議論、ご意見をいただきましたが、この二つを比較した場合、ほとんど影響がない、という認識が示されていますが、よろしいでしょうか。

○増井委員

このＤＰＣのデータのところですが、前回の話では、刈谷豊田総合病院も半田病院もかなり高度な急性期の治療になっている病床があるので、それが半田北部グランドに移転した場合に、同じような機能を持った病院が二つ近づいてしまうので、患者の取り合いになるのではないかというところがあったかと思うのですが、その辺のところはあまり気にしなくていいという結果になったということでよろしいでしょうか。

○瀬口会長

その辺りのことが、このＤＰＣデータの分析の中で、組み込まれているかどうかという質問だと思いますが、組み込まれているのでしょうか。

○渡邉委員

正直なところ、そこまでは読めないと思います。

○瀬口会長
　組み込まれていない、ということでよろしいですか。

○渡邉委員
　これは、直接、今のご質問とは違いますが、23 のスライドの表を見ていただきますと、例えば２番目の表では、半田運動公園に建てた場合に 30 分近似円で重なっていた刈谷豊田総合病院に誘引される症例数になっていますが、これも全て想定です。ＤＰＣでは、そこまで評価はできませんので、予測値として書いてあります。

○瀬口会長
　ここのパーセンテージはどういうふうに読めばいいのですか。
　症例数が全部 30 分の圏域か 15 分の圏域に入っているという見方をするのでしょうか。

○渡邉委員
　例えば、30 分近似円で重なっていて、半田運動公園に建てた場合は重ならなくなった東浦町の人は、このデータだと全部で 63 例ある。
　その人たちが全員、刈谷豊田総合病院のほうに行かれた場合には 63 となる。

○瀬口会長
　30 分近似円の中の患者さんの人数が 63 人、84 人と示されていて、出て行く割合が 100％から 20％、10％まで書いてあった、そういうことですね。
　ですから、今の増井委員さんのおっしゃっているデータは入ってない。
　都市計画で商業施設、二つの大型店を比較する場合に、大型店の売り場面積が違うと、同心円を書いても意味がないので、誘引の割合っていうのがずれてくるわけです。
　今、増井委員がおっしゃったのは、診療の中身によって、誘引というか患者さんが来る割合が違うのではないか。それが入っているかということですが、今の説明だと、入っていないという感じですね。

○渡邉委員
　そうだと思います。ＤＰＣではそこまでは無理だと思います。

○瀬口会長
　そういうことだそうです。なかなかその辺りの分析は難しいということです。

○渡邉委員
　こういうデータが出ても、そこまで判断できないだろうということで、患者アンケートを実施したのも一つの目的です。
　今、受診している患者さんが、半田運動公園又は半田北部グラウンドに移転した場合に、どこの地区の人に、受診していただけるのかどうかというのも一つの指標。

○瀬口会長
　患者さんは、自宅から近いのを優先して判断するということでしょうか。

○渡邉委員
　受診していただけるかどうかですね。

○瀬口会長
　今のご質問を、渡邉副院長さんから答えていただきましたが、どうでしょうか。

○清井委員
　ＤＰＣの解釈のところで、皆さんが混乱しているのではないかと思うのですが、ＤＰＣというのは、ある疾患、ある病気、病名がつくとそれで決められたＤＰＣコードというのがありまして、そこに当てはまった患者さんについては、診療報酬がいくら、１日入院するといくらというように決められているコードなんですね。
　そのコードには、患者さんがどこにお住まいであるとか、年齢、性別などの情報がついているので、どこにお住まいの患者さんが入院されているのかというのを、各病院で把握するときに使えるということなんですね。
　今、会長が言われたようなことは、ＤＰＣのコード別に、診療報酬、収益の値段は変わるものですから、それを１個、１個見ればわかりますが、そこを考慮してまで、全てを比較するというのは、やろうと思えばできると思いますが、現実的には非常に難しいところだと思います。
　例えば、この 30 分近似円で重なっている患者さんを抽出して、その患者さんのＤＰＣとしての収益がいくらという計算をした場合に、その方が流出した場合に新病院としての収益がどのぐらい流出することになるのかという計算の仕方は不可能ではないと思いますが、それが新たに流入してくる場合に、どういうＤＰＣの点数が高い方がたくさん逆に流入してくることになるのか。あるいは、その流入してくる方が増えたとしても、比較的ＤＰＣの点数の低い方が流入してくる場合には、その差というのは病院収益で考えた場合では差が出てきますよね。
　そこをどう判断するかというのは、すごく大変な作業で、個人情報にもかかわってきますので、今回の分析は、地区を把握するために公開されている資料を利用したということだと思います。
　もう１点、ここでもう少し、会長が言われたようなことの参考にできるとすれば、例えば、半田病院でＤＰＣが適用になっている患者さんが、何％いらっしゃるのか。あるいは、ＤＰＣは基本的に入院されている患者さんですので、半田病院の入院患者さんは、予定入院が多いのか、緊急入院が多いのか。
　その割合が、予定入院の患者さんが多いということになると、外来患者さんから入院していくということですので、外来患者さんが減ると予定入院の患者さんが減りますから、トータルとして入院患者さんが減る可能性が高くなる。
　ただ、半田病院のように三次救急を担っていらっしゃるような病院ですと、当然、救急での搬送が多いですので、予定入院ではなく、緊急入院の割合が高いのではないかと思うのですが、そうすると、今言ったような懸念というのは考慮しなくてもいいという

ことになると思います。
　その辺りの資料が出てくると、会長が言われたような懸念ということも、少し排除できるのかなと思います。

○瀬口会長
　懸念しているわけではなく、理解できていませんでした。ありがとうございます。
　ＤＰＣ患者さんの割合が何割ぐらいか、おおよその数字はわかっているのでしょうか。

○沢田医事課長
　今、手元に詳細な数字は持ち合わせていませんが、診療報酬の請求額の内訳では、ほとんどがＤＰＣの請求になっております。

○瀬口会長
　ほとんどがということは、８～９割ぐらいがＤＰＣだということですか。

○沢田医事課長
　はい。そう考えていただいて構わないと思います。

○瀬口会長
　他にはどうでしょうか。
　今のところで、「全体の患者数からすると、それほど影響はないと考えられる」というのは、そういうことでよろしいのでしょうかね。
　緊急入院の方が多いとすると、どこに移転してもあまり関係ないという認識なのかということも考えられるし、外来患者さんのアンケートを見ると、それほど大きな違いがないという、認識なんですよね。
　ですから、総合すると「全体の患者数からすると、それほど影響はないと考えられる」というふうにまとめました、ということですね。
　その次が「半田運動公園に移転した場合は、常滑市民病院とも協議が必要になる。機能分担とか経営形態など。」これはそういうことでよろしいですか。
　前回の認識では、そういうことですね。ということは、病院の機能が違うかなと思ってしまうのですが、いかがでしょうか。
　次が、「撓曲や活断層が各候補地に与える影響は同程度であるが、いずれの場所においても決して軽視せずに、対応に万全を期す必要がある。」
　これは、前回専門家のアドバイスをいただいて、「こういうことを考えなさい、こういうことが必要だ。」ということでした。
　それから「公共交通アクセスについてはコミュニティバスなどの検討が必要だ。」と。
　これは、先ほどの増井委員さんの話にもありましたが、亀崎のほうから行けば、今まで 14 分で行けたのが、半田運動公園の場合ですと 22 分かかるので、心理的には遠くなった気がする。交通アクセスについては、市民にとっては非常に気がかりなところなので、万全を期してほしいということを、このまとめとして書いていただいているということですね。

そういうことで、内容を７点整理していただきましたが、こういうことでよろしいでしょうか。

○篠田委員
たまたま、数日前に、病院の経営評価委員会がありまして、その席に、安城更生病院の院長さんが出席をされておりました。
安城更生病院は、半田病院と同じように三次救急を主体とする、いわゆる中核病院、しかも、安城駅前の、まさに駅から数分というところから、田んぼの真ん中へ移転したという病院です。
定量的な話はとても資料にできませんでしたが、大変な田舎へ移転したということについて、これは前に比べて、どんな悪い点があったのかという質問をさせていただきましたが、それに対しては、大変よかったという返事でした。その理由については、はっきりとは聞くことができませんでしたが、移転したということは大変よかったいうことです。
それからもう１点は、今までの大変便利なところから郊外に移転したわけですから、通院距離が大変増えたけれども、それによって患者は減ったかどうかということについて質問しましたが、「全然そういうことはない」という答えでした。
たまたま、半田病院と病院の性格が全く同じですから、中心市街地から離れるということについて、やってみてどうだったのかというのを聞きたかったというのが、趣旨なんですが。
その時の定性的な説明しか出ませんでしたが、移転して新しい病院にしたということは大変よかったというのがそのときの説明です。
これは、たまたまそういうチャンスがあったので聞いたので、ここでどうのこうのいうことではありませんが、一応ご披露させていただきます。

○瀬口会長
ありがとうございます。
安城更生病院は、駅前で中心市街地だったから、交通だとか駐車場の問題があったのかもしれませんね。
ちょっと郊外で、そんなに郊外ではないですが、歩いては行けない。

○篠田委員
田んぼの真ん中ですから、歩いてはいけないです。

○瀬口会長
ありがとうございます。
そういうのも参考になるのではないかということです。
他にはどうでしょうか。

○篠田委員
何かそういうことで、半田病院のほうでいろいろ他の病院のことを聞いておられるよ

うなことがあれば、判断の参考になるので聞かせていただけたらなと思いますが、どうでしょうか。

○瀬口会長
　私は岡崎に住んでいるのですが、岡崎市民病院も山の中に移転しました。
　バスはどうなっているかというのがあったので調べると、東岡崎駅と美合駅、それから北の方からの３か所からバスが出ているんですね。
　ですから、１か所からではなくて、それぞれの地域の人が時間を合わせれば、その市民病院に行けるようになっているんだと思いました。
　東岡崎駅からは、時間の波がありますが、バスが１時間に２本か３本出ています。岡崎市民病院は、ほとんどの人が車で行くと思うのですが、車で行けない人もいますので、そういう人のことも十分考えているのかなと。
　だから、恐らく半田病院も同じような方がいらっしゃるので、そういうことはもう前から出ておりまして、どういう形で対応できるかが課題です。
　他の事例では、そういう山の中や郊外はどうしているのでしょうか。
　安城更生病院の場合、交通手段はどのように対応しているのか、聞かれなかったのでしょうか。

○篠田委員
　聞いてございません。

○瀬口会長
　他にはどうでしょうか。

○増井委員
　内容整理の下から三つ目に、常滑市民病院との協議というのがあります。このお示しされた地図を見ても、かなり常滑市民病院の近くに行くので、これが非常に鍵となるのではないかと思うのですが。
　これが近くにあっても問題なく機能分担ができるというのがあれば、半田運動公園というのは候補に挙がるのですが、もしそれが根本的に非常に難しいということになると、そもそも半田運動公園に移転させることが難しくなるのではないかと思います。
　その辺の、「常滑市民病院との協議が必要になる」というのが、できそうなのか知りたいと思います。

○渡邉委員
　できるかどうかというか、やらないといけないと思っております。
　ただ、これは我々の病院だけの問題ではありません。もちろん、こういう委員会が開催されている時点で、事前に、常滑市民病院さんにそういう話をするというのは恐らくできませんので、名古屋大学側がどう思ってみえるかというのも一つ大きなポイントだと、我々は思っています。
　大きい科には、ほとんど名古屋大学から職員が派遣されていますから、大学側として、

近くにあり、共同で機能分担してやっていけというようなお墨つきをいただければ、なお協議はうまくいくと思っております。

○清井委員
　それは、非常に難しい問題ですよね。
　渡邉先生もご存じのように、それほどシンプルなものでないですし、もう１点は常滑市民病院がつい最近建ったばかりというところもあると思います。

○渡邉委員
　僕の考えというか、半田病院の院長の考えとしても、何も急性期を全部半田病院が受けて、常滑市民病院さんは急性期をやらないとか、そういうことでは恐らくないと思います。こちらは、いわゆる三次救急ですし。
　救急車の搬送回数も調べました。
　ここ数年間のデータを見ましても、当院への救急搬送が、１年間にだいたい 6,000 件から 7,000 件の間です。常滑市さんが 2,700 件ぐらいで、そのうちの重症患者の搬送が 350 件ぐらいあります。そのうちの 150 件ぐらいが当院に搬送されています。
　ということは、現在でも、常滑救急の重症患者さんの半分弱は半田病院に移送されているという現状ですので、より重症な患者さんは当院で担って、一次、二次の軽い患者さんは常滑市民病院さんとか。
　どういう協議なるかわかりませんが、いろいろ細かいところは、医療サイドで詰めないといけないと思います。
　努力をすれば、知多半島中南部の住民の方々を、二つの病院で急性期から回復期まで担っていくというコンセプトでやれば、絶対成功できると思っておりますが、ただ行政側の協力も要ると思いますので。

○瀬口会長
　前回、半田市は全面的に協力するとおっしゃっていただいておりますが、どうですか。

○堀嵜委員
　既に、先ほど渡邉副院長に言っていただいたように、常滑市の山田副市長さんという方は、実は非常に病院経営に詳しい方であります。
　八千代病院の事務長までやっておられたような方が、常滑の副市長になられておるということで、いろいろなお考えを持っておりますので、半田市の考え方をきちっとお伝えして、今、渡邉副院長が言われたような、いい方向を目指していきたいと思っておりますし、先だっての打ち合わせの中でも、もし、運動公園に場所が決まったということになれば、すぐに半田市長が常滑市長のところに出向いて、協議をしたいという旨をお伝えする、という確約までいただいておりますので、もし場所が決まれば全力でやらせていただきます。

○瀬口会長
　そういうことだそうですが、花井委員、ご意見ございますか。

○花井委員

もちろん、前々から事あるごとに、関係各方面にお願いしていますように、このことは絶対に、機能分担ができなければ、両方の病院の経営が明らかに支障をきたし、下手すれば共倒れになってしまう可能性がある、そういう、案件だと私は思っていますので、もし、この会議でそういう話になれば、今の副市長さんの話ではないですが、医師会としましても、常滑市の医師会というのは常滑市単独の医師会ではなくて、知多郡医師会の常滑支部という位置づけであり、その代表の先生が当然おいでになりますので、その先生と、積極的に医師会レベルの打合わせをやっていきたいと思います。

特に、常滑市は最近、市が中心となって、在宅の中心センターをつくりましたので、そことの相互協力というのも考えて、在宅も含めてやっていかなければいけないと思っています。

○瀬口会長

ありがとうございます。

ほぼ意見が、出尽くしましたでしょうか。

今、この内容整理で７項目、ご意見をいただきましたが、これ以外にもご意見がありましたらお願いしたいと思います。

特にございませんか。

○篠田委員

このスライドの 26 が、半田運動公園に移転したときの各病院との近接性なのですが、確かに、常滑市民病院と大変近い状況になるんですね。

もちろん、常滑市民病院は新設でした。それから、半田病院も新設されるわけですから、新しさには変わりない。

重症患者用ということで、設備も半田病院の方が多分良くなるだろうと思いますね。そうすると、常滑市民病院の方が経営的に大きな影響が出てくるのではないか、という気がするんですね。

○瀬口会長

その場合に、何か別の形はありますか。

今までの会議の流れでいうと、半田運動公園のほうに、皆さんがほぼ同じ方向を向いているかなと思いますが、半田北部グラウンドを主張される方はいらっしゃいますか。

半田北部グラウンドを主張される方はいないみたいですが、そういう懸念に対しては、今、病院と市とで、十分話していただけるということだったかと思うのですが、そういう方向でよろしいでしょうか。

今日は余り議論が白熱しない感じになってしまいましたが、ほぼ皆さんの意見がまとまりました。

確かに懸念はあります。懸念はこれまでの過程で随分出されていますし、病院の経営についても、懸念が出されました。

次回が最終報告で、これは候補地を一つだけに決めるとか、次善のこれですとか、何か順番をつけたりするのでしょうか。

決めた場所がだめだった場合は、次善を選択するということもあるのでしょうか。

○竹内事務局長
１か所に決めていただきたいと思います。

○瀬口会長
一つで決めるということでございますので、次回は今日の議論の内容をまとめていただきたいと思います。
特に問題なのは、懸念の問題ですね。どういうことが課題として乗り越えていかなければいけないのかというのを、病院の経営の問題、環境の問題、災害の問題、それから市民の問題とか、その広域性の問題とかそういうものを含めて、整理したものを出していただいて、まとめの中にそれをつけるということにさせていただいたらどうかと思いますが、どうでしょうか。
よろしいですか。

≪了承≫

○瀬口会長
ありがとうございます。
それでは、今の候補地については、方向性がほぼ皆さん同意見ということでございますので、その他にありましたら事務局のほうからお願いします。

○都築主幹
では、その他として事務局から２点お願いいたします。
１点目は、次回日程の連絡でございます。第４回検討委員会の開催は、３月 18 日の日曜日、午後２時から本日の会場と同じ第４会議室とさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
２点目は、本日の議事録でございます。事務局において議事要旨録案を作成し、３月１日を目途に委員の皆様に送付させていただきます。
ご発言の内容をまとめたものを、事前に目を通していただき、内容等ご了承いただいた上で、当院のホームページにおいて公開させていただくということにさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○瀬口会長
ありがとうございました。
本日の議事は以上をもって全て終了いたしました。これで終了させていただきます。ありがとうございました。

≪閉会≫

以上